

2020年北海道向け飼料用トウモロコシ 新品種のご紹介

研究開発本部 牧草・飼料作物研究グループ 三浦 優一

新年あけましておめでとうございます。

昨年のトウモロコシの生育はいかがでしたでしょうか。道内では、播種後の少雨による生育遅延やすす紋病等の病害によりやや減収した地域があったものの、強風雨による著しい倒伏はほとんどなく、概ね良質な自給飼料生産が確保できたのではないのでしょうか。

本稿では、本年より販売開始する北海道向け飼料用トウモロコシ品種を紹介します。

ニューデント80 (LG31207)

80日クラス「ビビッド」の後継として、今春から「LG31207」を本格販売します（写真1）。

80日クラスの作付けが多い根釧地域は、年によっては播種後の低温により初期の生育が停滞することがあります。「LG31207」はそのような冷涼地域で栽培しても比較的初期の生育が良好な品種です。稈長は「ビビッド」より約30cm高く、茎葉ボリュームに優れた大柄な草姿を呈します。

絹糸抽出期は「ビビッド」より1～2日早い程度ですが、収量性は「ビビッド」から大きく改善しています。昨年の十勝地域における「LG31207」の推定TDN収量は「ビビッド」比で14%高く、極早生クラス販売品種の中でもトップクラスでした（図1）。雌穂は太く、大粒な子実を形成します。

総体乾物率は弊社極早生品種群の中で最も高く、雌穂登熟が早い品種です。根釧・網走管内などの冷涼地域では高い収量を確保したい方、道東地域の条件の良好な地帯では早期収穫を想定した秋播きコムギの前作としてお勧めします。

弊社では収量性だけではなく、耐病性向上にも努めています。すす紋病が自然発病する大樹試験地において、同病の罹病程度を経時的に調査したところ、「LG31207」は「ビビッド」よりも罹病の進行が緩やかで、すす紋病に対して十分な抵抗性を示しました（図2）。同病害によるサイレージ品質低下に悩まされている方にもお勧めできる品種です。

「LG31207」のような生育が旺盛な品種は、播種が遅れると、比較的気温が高い時期に発芽・幼苗期を迎えることになるので勢いよく伸長する反面、稈が軟弱徒

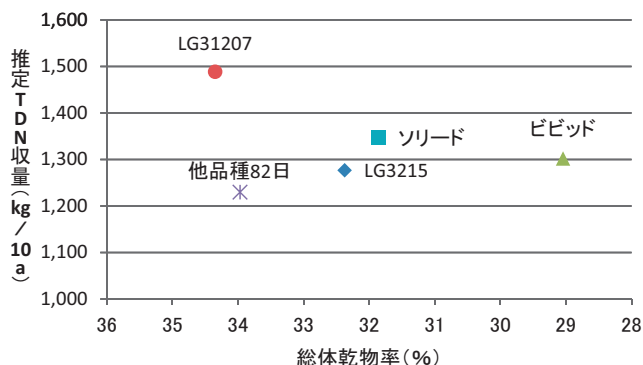


図1 極早生クラス販売品種の収量性
(2019年 川西・大樹試験地の平均値)



写真1 ニューデント80 (LG31207)

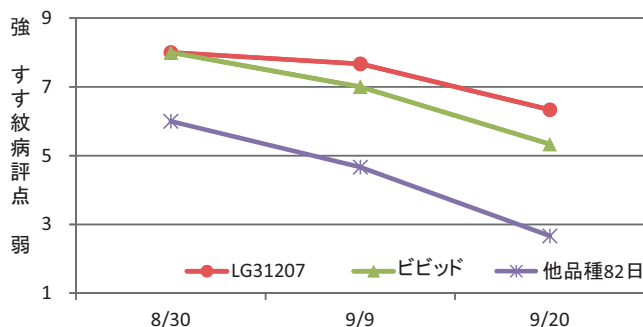


図2 80日クラス販売品種のすす紋病抵抗性
(2019年 大樹試験地)

長になり、場合によっては甚大な倒伏を招くことがあります。倒れにくい頑健なトウモロコシを作るために、早期の播種と適切な栽植本数（8,000本/10a前後）を心がけてください。

また、本品種は除草剤「ワンホープ乳剤」が使用できません。雑草茎葉散布には同剤以外の除草剤をご使用ください。

ニューデント85 (LG31237)

85日クラスは、「エリオット」、「ビビアン」に加え、新たに「LG31237」を本年度より販売します(写真2)。

「LG31237」は80日クラス「LG31207」同様、見栄えが良好な草姿で、稈長は「エリオット」、「ビビアン」両品種よりも30～40cm高く、「ビビアン」より多収な品種です。雌穂は先端不稔が無く実入りが良好なので、子実収量が安定して高いのが特長です。

85日クラス品種のすす紋病の罹病程度を調査したところ、「LG31237」のすす紋病の罹病程度の進行はビビアンよりも緩やかで、同病抵抗性はビビアンより良好なことを確認しています。

「LG31237」は大柄な品種のため、耐倒伏性はビビアンより劣ります。過度な密植は避け、栽植本数は7,000～8,000本/10aになるよう作付けください。



写真2 ニューデント85 (LG31237)

「LG30500」は現行の「LG3520」に比べ絹糸抽出は1～2日遅いものの、総体乾物率はほぼ同程度ですので、「LG3520」の栽培が適した地域でそのまま作付けすることができます。草姿は両品種間で大きな違いはありませんが、昨年の長沼、八雲試験地における「LG30500」のTDN収量は、「LG3520」対比でそれぞれ102、106を示し、「LG3520」よりも多収でした(図4)。110日クラスは道内だけでなく、府県でも需要が高いため、広域適応性が求められる熟期帯です。「LG30500」は道央・道南地域の太平洋沿岸で発生するすす紋病の抵抗性に優れているのみならず、府県で多発するごま葉枯病の抵抗性にも優れているのが特長です。

「LG30500」の耐倒伏性は「LG3520」と同程度です。実用的には問題ない程度の耐倒伏性は備えておりますが、大柄な品種ですので7,000本/10a前後で作付けください。「LG30500」は収量性、耐病性ともに「LG3520」の特性を上回っておりますので、これまで「LG3520」をご使用いただいていたお客様へも安心してお勧めできる品種です。



写真3 LG3520 (左側) とLG30500 (右側)

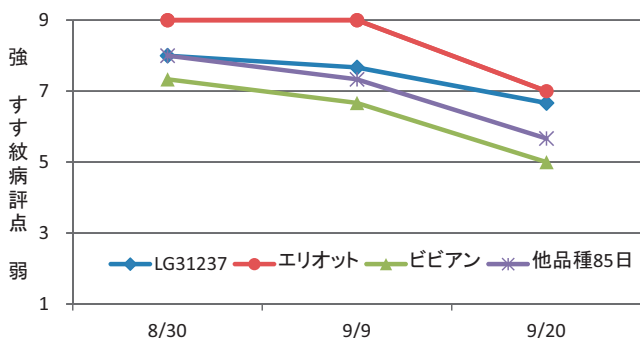


図3 85日クラス販売品種のすす紋病抵抗性 (2019年 大樹試験地)

85日クラスは品種の特性により使いわけができません。収量性を重視する方は「LG31237」、すす紋病が多発する地帯には「エリオット」、耐倒伏性と根腐病対策には「ビビアン」をお勧めします。

スノーデント110® (LG30500)

110日クラス「LG3520」の後継として、「LG30500」を本年度から販売します(写真3)。

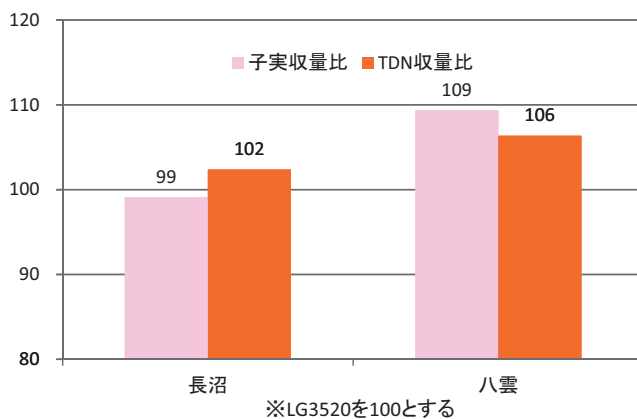


図4 LG30500の収量性 (2019年)

弊社では、本稿で紹介した3品種を含め、道内向け飼料用トウモロコシ品種を多数取り扱っております。お求めの際は最寄りの営業所へお問い合わせください。